

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 22.7.28 第 174 回国会第 17 号（閉会中審査）

7月28日（水）第17回の委員会が開かれました。

1 篠原農林水産副大臣から就任の挨拶が行われました。

2 農林水産関係の基本施策に関する件（口蹄疫問題等）

- ・山田農林水産大臣から説明を聴取しました。
- ・山田農林水産大臣、古川内閣官房副長官、池田財務副大臣、鈴木文部科学副大臣、篠原農林水産副大臣、松下経済産業副大臣、小川総務大臣政務官、大串財務大臣政務官及び長安国土交通大臣政務官に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

道 休 誠一郎君（民主）

- ・宮崎県における口蹄疫の爆発的な感染拡大への対応について、農林水産大臣はどのように評価しているのか。
- ・口蹄疫対策への予備費の活用や特別交付税の措置などについて、国はどのように対応するのか。
- ・口蹄疫対策特別措置法（平成 22 年 6 月 4 日法律第 44 号。以下「特措法」という。）第 23 条に基づく地域再生のための基金の創設について、現在の検討状況はどうなっているのか。

宮 腰 光 寛君（自民）

- ・戸別所得補償制度は、衆議院選挙当時のマニフェストと比べて後退しているが、農林水産大臣はどのように考えるのか。
- ・特措法第 23 条で定められている基金を早急に設置すべきと考えるが、内閣官房副長官はどのように考えているのか。
- ・諫早湾干拓事業潮受堤防排水門の開門調査は環境アセスメント調査に基づき行うべきと考えるが、農林水産大臣はどのように対応するのか。

江 藤 拓君（自民）

- ・家畜疾病経営維持資金の据置期間の延長や家畜人工授精師に対する支援などきめ細かな対応が必要だと考えるが、農林水産大臣はどのように考えているのか。
- ・特措法や家畜伝染病予防法は改正する必要があると考えるが、農林水産副大臣はどのように考えているのか。
- ・ワクチン接種農家の殺処分された牛についても共済金を支払うべきではないか。

坂 本 哲 志君（自民）

- ・特措法制定に消極的であった前農林水産大臣の下で副大臣を務めていた山田農林水産大臣は、同法についてどの

ように考えているか。

- ・昭和 26 年に制定された家畜伝染病予防法について、大規模化した畜産経営の現状に対応できないことを踏まえ、国の権限を強化する等抜本的に改正する必要があるのではないかと。
- ・独自に防疫措置や支援措置を講じた県に対し、特別交付税等でどのように支援していくのか。また、特措法第 23 条の基金設置の在り方について、どのように考えているのか。

徳 田 毅君（自民）

- ・口蹄疫ウイルスに汚染されたおそれのある家畜の排せつ物の処理は適切に行われているのか。
- ・子牛の出荷遅延対策の対象範囲について、3 県（宮崎県、鹿児島県、熊本県）に限定する必要はないのではないかと。
- ・また、助成単価の算定には家族労働費も考慮すべきではなかったか。
- ・特措法第 23 条の基金の必要性について、農林水産大臣はどのように考えるのか。

東 順 治君（公明）

- ・口蹄疫問題を担当する特命担当大臣を設置し復興再建に取り組むべきと考えるが、内閣官房副長官はどのように考えるか。
- ・特措法第 23 条の基金を早急に設置すべきではないか。

吉 泉 秀 男君（社民）

- ・7 月 16 日付で宮崎県知事から政府に提出された基金に係る要望の取扱いについて、政府内での対応はどうなっているのか。
- ・感染経路の徹底した究明に政府はどのように取り組むのか。
- ・5 市 7 町 252 か所にある埋却地について、誰が管理し、環境対策等に取り組むのか。

本ニュースは、速報性を重視した概要版として事務局において作成しているものです。
詳細な内容については会議録を御参照ください。